

Title	心の世界を絵本に学ぶ (2013 年度 聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター主催：カウンセリングシンポジウム)
Author(s)	蘭, 暁栄
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.23-No.2, 2013.12 : 32-33
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=5027
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

2013年度 聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター主催 カウンセリングシンポジウム 心の世界を絵本に学ぶ

2013年9月27日（金）に、聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター主催の「心の世界を絵本に学ぶ」と題してカウンセリングシンポジウムが開催された。今回は、絵本を手がかりに心や魂の世界を学んだ。絵本には、思いがけない設定やストーリーがあり、そこには、心や魂の深い現われを見ることができる。命と死、別れ、自立と援助、様々な世界を参加された方と一緒に味わうことができた。来場者は100名を超える盛会であった。

本学理事長である阿久戸光晴先生の開会の絵本とは大人が感動しながら、子どもたちに伝えるものであるというご挨拶からシンポジウムは始まった。

第一部として、司会者兼講演者として聖学院大学大学院教授・同大学人間福祉学部こども心理学科長の窪寺俊之教授、聖学院大学大学院准教授・同大学人間福祉学部こども心理学科の藤掛 明准教授、聖学院大学大学院非常勤講師・臨床牧会カウンセラー・スーパーヴァイザーの堀 肇先生より、「心の世界を絵本に学ぶ」表題についてご講演を頂いた。概要は以下の通りである。

窪寺俊之先生はレオ・バスカーリアの『葉っぱのフレディー——いのちの旅』に見る死生観につ

いて話された。死は特別のことではなく、当たり前のことだと認識させられた。死の不安、恐怖を取り除く働きがこの本にあることを感じた。「今のいのち」をしっかりと生きることを自覚させられた。

堀 肇先生は家族を亡くした子どもたちの悲しみが、深みのある絵とシンプルな言葉で描写されていき、人の深い悲しみに寄り添い、静かな癒しをもたらしてくれる、メアリー・ジョスリンの死を考える絵本『さよならボート』を取り上げられた。生きるということの中には晴のような喜びもあるが、この世界から音も色も消えてしまうような悲しみもある。絵本は子どものための本、と考えられる方もあるかもしれないが、内容は年齢を超えた普遍的なものである。できれば大人と子どもが想像力をふくらませながら、一緒に読んで欲しいと話された。

藤掛 明先生は「ちいさなきいろいかさ」を中心に、絵本は臨床心理学からみると人の心の深い世界、魂の世界を扱っているものであることを話された。本来、心の世界は、客観的、論理的に語ることが難しい。そこで、物語やイメージを通じて表現することになる。そこに絵本の持ち味があることを教えていただいた。雨と傘のメタファーで、絵本を楽しむことから、①母親との一体感の



窪寺 俊之 教授



堀 肇 講師



藤掛 明 准教授

世界、②傘による自立、③自立の特徴、④傘を指す人自身の問題、⑤援助者の成長、について取り上げられた。

講演後は第二部として、満員の参加者とともに活発な質疑応答が行なわれ、多くの方にとって、絵本を手がかりにとって、自立と援助を考える様々な絵本の世界を味わう機会となった。

(文責：蘭曉栄[ラン・ギョウエイ] 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程)